

30-4 経営協議会議事概要

日時 平成30年11月20日(火) 13:30~15:25

委員 駒田学長(議長)

志田, 高木, 西岡, 村本, 渡辺

山本, 鶴岡, 尾西, 尾藤, 伊藤 各委員

列席者 富樫, 野崎, 橋本, 堀, 吉本, 竹井 各副学長

服部監事, 山中監事

◎議事概要の確認

30-3の議事概要(案)について, 了承された。

I 審議事項

1. 活用していない不動産について

尾藤理事から, 「資料: 審-1, 参考資料1」に基づき, 活用していない不動産についての説明があり, 審議の結果, 原案どおり承認された。

<主な意見>

○現在稼働している宿舍の利用状況はどうなっているか。

→稼働中の宿舍は2か所, 139室あり, 約8割が稼働している。

○美杉町に宿舍があるのは何故か。

→演習林があり, そこに勤務する職員のための宿舍だった。

○渋見町は一等地なので買い手があるだろう。美杉町は売却が難しいだろうが, 都会には買いたいという人もあるかもしれない。高野尾町は立地が特殊だが, 買い手があるかもしれない。

→渋見町と美杉町については, 資料のスケジュールに則って手続きを進めたい。高野尾町については売却と賃貸と両方の可能性があり, 調整の時間も必要であるため, 当該スケジュールとは異なるということでご承知おきいただきたい。

II 報告事項

1. 平成29事業年度に係る業務の実績に関する評価結果について

尾西理事から, 「資料: 報-1」に基づき, 平成29事業年度に係る業務の実績に関する評価結果についての報告があった。

<主な意見>

- 附属病院所属研究者の英語論文数が年度計画の数値目標の110編を大幅に上回って170編となった理由は何か。
→年度の目標は上回ったが、千葉大学は600編とのことなので、決して満足すべき数ではないと考えている。
- 地域人材教育開発機構では教学IRを大いに活用しているようだが、問題提起は担当者が行っているのか、指示により行っているのか。IRを効果的に活用されているところとそうでないところがあるが、三重大学ではどのようなシステムで推進し、成果が出ているのか。
→教育成果や満足度などについて毎年調査や評価を行い、現状を把握している。その数値について教学IR教育評価開発部門がデータを集約、分析して、教育会議において報告している。そこで全体のデータのほかに学部別のデータを示し、各学部に投げかけて、学部の特徴や課題・問題点を浮き上がらせ、その問題を共有し、改善に向けたための分析や検討を、教育会議を中心に進めているが、それがある程度機能している状況である。
- 学生の志望理由のアンケートにおいて、ホームページの回答が増加したとあるが、ホームページ以外にどういった取組をしているか。
→オープンキャンパスや出前授業、入試相談会等を行っている。入学した学生へのアンケートで圧倒的に多い回答がオープンキャンパスである。大学全体の説明の場のほか、希望する学部での模擬授業や先輩との交流もあり、学生の希望と三重大学がマッチしているのかを考えるきっかけになっている。
- ホームページが重要と認識しているが、予算的な問題がある。
- 高度生殖医療は、がん患者に対する卵巣凍結だけをしているのか。
→不妊症治療全般を行っている。不妊治療は民間病院もやっているので大学は高度な部分を行っている。今年度は、放射線療法や化学療法など、妊娠に対する影響が及ぶ治療を行うがん患者に対し、予め卵巣凍結を行うことを始めた。

2. 給与改定の方針について

尾藤理事から、「資料：報-2」に基づき、給与改定の方針についての報告があった。

<主な意見>

- 若年層は1,000円の引き上げる改定をするとあるが、若年層の年齢はどのくらいか。

- 本給表の中で引き上げられる号給が定められているが、大体35歳くらいまでである。
- 一般の職員の期末・勤勉手当と役員の期末特別手当の支給率が異なるのは何故か。
- 国家公務員の一般職と指定職の支給率に準じている。指定職は本給表の月額が高いところに設定されているので、ボーナスの支給率は低いが、支給額は一般職よりも多くなる。
- どの国立大学法人も、教員の給与は同じか。突出した給与にすることはできるか。
- 地域手当を除き、大部分の大学は同じような給与体系になっている。また、年俸制により突出した給与にも決められる仕組みになっているが、財政的には限りもある。大学によっては、外部資金を獲得した時に、その一部を報奨金的に支給する制度を持つところもある。

3. 国立大学等施設整備予算について（平成30年度補正予算案）

尾藤理事から、「資料：報-3」に基づき、平成30年度補正予算の内示を受けた施設整備費概算要求事業についての報告があった。

4. その他

（1）環境報告書について（席上配付資料）

施設部長から、席上配布された冊子に基づき、「環境報告書」についての報告があった。

（2）次回開催について

平成31年1月25日（金）15:00から開催することを確認した。

Ⅲ 意見交換

1. 三重大学の広報について

吉本副学長及び山本理事から、「資料：意-1，参考資料席上配布」に基づき、三重大学の広報についての説明があった後、種々意見交換を行った。

<主な意見>

- 広報の評価については、例えば、求人募集であれば応募者数と合格点の者の数、製品案内であれば問合せ件数と成約した件数という数値に現れる。そういったことから考えれば、大学受験者を対象とした広報であれば、志願者数と合格点の者の数ということになると思う。

- 三重大学は、いろいろな広報活動をしているが、「総合大学」や「地方にある国立の大学」といったイメージの他に、「これが売り」というものがなかなか伝わってこない。大学の特徴が分かるキャッチコピー等を考える必要があるのではないか。
- 部局毎の出版物は、大学としての統一感に欠ける印象なので、もう少し工夫をすると良い。
 - 統一感はとても大事である。各部局の出版物も、基本的なデザインを定めてそれを使用していけば、三重大学の統一したイメージが作られると思う。統一感を出しながら、変わらないものを常に見せていくということが、ブランドイメージを作っていく上で非常に大事である。建物についても、例えば、東京大学といえば時計台のイメージが浮かぶと思うが、三重大学と聞いてどの建物を思い浮かべるかということも、今後は考えていかなければならないと思う。あるアメリカの大学では100年前の建物を一部に残すようなキャンパス作りをしていた。歴史、建物、そして人の活動がブランドを作っていくので、そのような連携を考えると良いと思う。
 - 現在、三重大学は地域に貢献する大学を目指しているので、それが強みに伝わっていないことを反省している。大学の広報戦略は毎年度策定しているが、中長期の広報戦略がなかったので現在検討している。
- パンフレットの表記も「国立大学法人」が付いていたり「三重大学」だけだったりするし、ロゴの有無や、字体や色もバラバラである。例えばコカ・コーラは、カラーやロゴのイメージだけでコカ・コーラだとはっきり伝わってくる。そのように強烈に訴えるものがあると良いが、それは一朝一夕にはできないと思う。例えば、核になるデザインを決め、字体やカラーを統一することにより一目で三重大学が発信しているものと分かるようにしていくと良いのではないかと思う。
- 将来、人口減少に伴って病院が縮減すると、医療・福祉系の大学でも分野によっては縮小せざるを得なくなる。卒業しても三重県だけでは就職場所がなくなる。そこで、中部地区のみならず全国から学生を集め、卒業後は県外に就職してもらおうというのが、医療・福祉系大学の生き残る方法だろうと考えている。そこで、一人でも多くの生徒に見てもらおうようにしなければいけないと考えてSNSを始めた。新聞に記事を書いて大学をアピールしようとしても、最近の若い人はスマートフォンに特化し、新聞をほとんど読まないのので、フェイスブック、LINE、インスタグラム等を、大学を宣伝するために活用している。
- 広報担当の職員が少ない大学では、比較的簡易な広報誌を、対象を絞って発行している。対象としては、保護者、大学の役員、評議員会等

の関係者であり、その他は学生課のカウンターに置いている。「三重大X」は非常によくできており、研究、教育や地域との取り組みといった大学の活動を伝えていくというコンセプトはしっかりしている。ただ、年齢層は、学生から教職員、高校生、一般市民まで全部を網羅しているようだ。対象を絞り込んで、例えば、高校生向けの情報であれば、スマートフォンで発信すると効果的だと思う。

→三重大学も県内だけに目が行っているわけではない。例えば、三重大学生の出身地は、三重県、愛知県、大阪の順が多い。実際に、生物資源科学部では、大阪に試験会場を設けて入学試験を行っている。

○「三重大X」は大変よくできていると、以前から感心している。外部委託でなく、職員が作成しているというのにも感心した。いろいろと批判もあるようだが、より充実していくのが良いと思う。「歴史街道シリーズ」のように、直接大学と関係ない記事を他にもいくつか入れると良い。少々学術的になっているかもしれないが、それも誌価を高めていると思う。これを東海3県だけでなく、大阪や東京で配布できたらと思う。

○三重大学の特色というのはいかにも三重県らしい。三重県や津市がどこにあるのか知らない人も、伊勢神宮や鈴鹿サーキット、公害のあった四日市は知っている。三重大学も、ノーベル賞のような特筆すべきことが出れば良いと思うが、何か象徴的なものを一つ作るということは非常に大事である。

○日本がこれだけ素晴らしい国なのは、ほぼ党派を超えた平等な新聞が5～6紙あり、国民がそれを読んできたからである。若い人が新聞を読まなくなったというのであれば、インターネット等をより充実させなければならない。それでも、テレビやインターネットのニュースも新聞から派生してできているので、紙媒体は大事だと思う。

○広報担当者は報道機関の記者や支局長等と親しくなることで、自分の会社や大学が新聞やテレビで報道されるようにしなければならない。

○「三重大X」は、特急で津から四日市に移動する間に読むにはボリュームが多い。予算の問題もあるが、ボリュームを少なくして、現在の年2回から3～4回の発行にした方が効果的だと思う。また、シリーズを作って、次を見たいと思わせるような作り方もあると思う。

○広報の対象を誰にするのかによって、方法やツールが変わってくる。例えば、入学志望者を増やそうというのであれば、インターネットでの発信を強化しなければならないと思う。

→広報室は全学の広報を担当しているが、入試広報は入試チームが担当している。

- 大学の各部署が冊子や書き物を発行する際、全学の広報担当者が確認するのか。
- 広報室が全部に目を通してはいるわけではない。広報室の非常に限られた人数では対応は難しいため、大学としてどのような体制を作っていくのか考える余地があると思う。
- 三重大学の広報誌を見る人は、発行元は三重大学だと考え、大学のどの部署が出しているということはわからない。できるだけ統一感を持たそうと思ったときには、大変だとは思いますが、できる限りのチェックを入れることも必要ではないかと思う。
- 三重大学の各部署からバラバラに発行し、時期が重複したりするよりは、全体を統括して適度の間隔で発行するようにすると、読む人は常に新しい冊子を目にすることになり、より印象付くと思う。
- 三重大学のスクールカラーである緑色を必ず使うと良い。
- 同窓会と在校生を活用すると良い。例えば、学生窓口の対応が良いという評判が、在校生や同窓生から高校生に伝わって、その大学を受験するきっかけになることがあると聞いている。窓口でビジネスライクに対応されると、自分の大学は冷たいという情報になる。教員だけではなく、学生窓口配置される事務職員の影響も大きい。同窓会の影響は大きいので、広報にも上手に活用すると良い。
- 三重大学では学生が環境活動を行い、そのことが新聞の全国版にも掲載されているので、卒業生が就職後に職場の環境活動等で力を発揮して、環境といえは三重大学というくらいの評価が付いてくると、三重大学の特徴の一つが生きてくると思う。
- 私学の附属病院では、LINE登録者に情報を一斉配信している。
- 「三重大X」は、特急で名古屋から津までの移動する時間には、ちょうど読み終えるくらいのボリュームである。
- 病院の広報の対象は、ある程度の年齢で病気で悩んでいる方が多い。
- 病院のホームページをリニューアルし、スマートフォンにも対応するようにした。42国立大学病院のホームページをチェックし、次世代の新しい形と自負出来るホームページを作った。「つながる医療、みえる未来」というキャッチコピーは職員から募集した。病院のロゴマークも数年前に新病棟が開院する際に作った。三重大学のグリーンのロゴマークをベースにハート型にアレンジしたもので、新外来棟にも国道23号線から見えるように設置した。白衣にも付けている。言葉や大学のカラーを大切にしながら、病院を見れば三重大学が思い浮かぶ、三重大学といえは病院が思い浮かぶ、そうなるようにイメージを統一して広報活動をしていきたいと考えている。

- 病院の広報の成果を見るのに、ホームページの閲覧回数というものもあるが、三重県下のより広い地域から来院していただけているということにマーカ―にしていきたいと思っている。
- 病院の市民公開講座を12月にイオンシネマ津で開催するというお知らせをしたところ、平日の午後にも拘わらずかなりの反響があった。
- 広報は専門性が高い領域だが、外部の専門家はどれくらいいるか。
- 外部の専門家はいない。大学職員が担当している。
- 多少投資しても、専門家の手が入った方がクオリティやデザイン性が上がり、いろいろと刷新されるのではないかと思う。予算の問題もあるが、一度検討する必要があると思う。
- 病院でも外部の専門家を探したが、適任者がなかなか見つからなかった。そういう方がいれば、是非ご紹介をいただきたい。
- 広報室は常勤・非常勤併せて事務職員6名の体制だが、常勤職員は学内異動もあり、専門性という点では大きな課題があると思う。ホームページ管理は情報分野の専門性が必要だし、ポスター等はセンスが求められる部分もある。専門家の配置も含め、広報の体制というのは大きな課題だと思う。
- 全学の広報委員会は学部からの委員によって構成されているが、入試や学部の広報は含まず、十分機能しているとは言えない。大学全体の広報について情報共有できるようなことも考えながら、広報委員会の在り方を見直していかなければいけないと考える。
- 三重大学と地域との関わり方が見えにくいというアンケート意見を踏まえ、大学による地域貢献の取り組みを推進するため、三重大学の教育研究地域貢献活動や三重創生ファンタジスタ、高等教育コンソーシアム三重の取り組みなども含めて、企業や県民を対象とした広報を充実されるといかがか。
- 中長期の大学の広報戦略を検討している中で、三重大学の教職員全体に広報マインドを啓発すると同時に、情報共有を円滑にし、広報の対象毎に、最適な手段により発信できるよう改善していきたいと思う。
- 統一感については、例えば表紙と裏表紙だけは色を統一するとか、ポスターのある部分だけは必ず統一するとか、パワーポイントのテンプレートにも大学用のデザインはあるが、あまり使われていないのを使ってもらえるようにするとか、まずはすぐにできることから実行していきたい。

以上